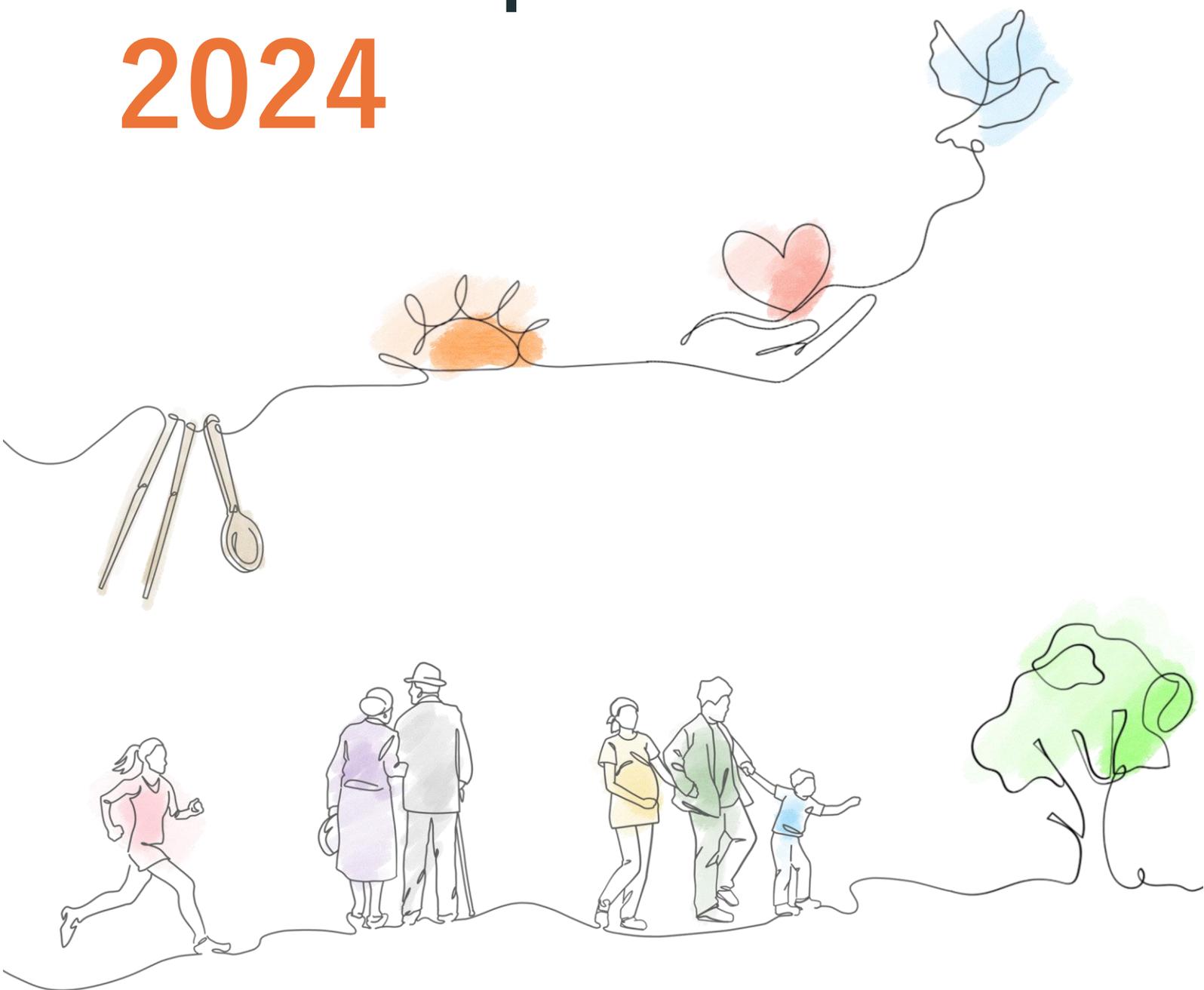


栄養と身体活動に関する WHO 協力センター  
2024 年度 年次報告書

# Annual Report 2024



National Institutes of Biomedical Innovation, Health and Nutrition  
Unit for International Collaboration on  
Nutrition and Physical Activity



WHO Collaborating Centre  
For Nutrition and Physical Activity

# 栄養と身体活動に関する WHO 協力センター

WHO Collaborating Centre for Nutrition and Physical Activity

3 期目（2022 年 3 月 19 日～2026 年 3 月 18 日）の  
行動計画（TOR: Terms of Reference）に関する年次報告書（2024 年度）

## 目次

<b>本活動報告の意義</b> .....	<b>3</b>
<b>行動計画 TOR1</b> .....	<b>4</b>
<b>Activity 1 「持続可能で健康的な食事」と「食育」のための食品ベースの食事ガイドラインに関する政策と戦略</b> .....	<b>4</b>
WHO の要請内容および成果物の活用方法 .....	4
WHOCC の活動目標 .....	4
WHO の役割 .....	5
活動のハイライト 1：国外の食品ベースの食事ガイドラインに基づくこれまでの科学的根拠のレビュー .....	5
活動のハイライト 2：国内の食品ベースの食事ガイドラインの開発と適応に関する情報提供と技術的支援 .....	6
活動のハイライト 3：「食育」に関する概念の適応における技術的支援 .....	8
<b>Activity 2 健康的な食事と栄養不良の二重負荷に関する知識、経験、教訓、優良事例の情報交換の促進</b> .....	<b>10</b>
WHO の要請内容および成果物の活用方法 .....	10
WHOCC の活動目標 .....	10
WHO の役割 .....	10
活動のハイライト 4：アジア栄養ネットワークシンポジウムの調整と提供 .....	11
<b>行動計画 TOR 2</b> .....	<b>12</b>
<b>Activity 3 栄養と身体活動のサーベイランスに関する能力強化</b> .....	<b>12</b>
WHO の要請内容および成果物の活用方法 .....	12
WHOCC の活動目標 .....	12
WHO の役割 .....	13

活動のハイライト 5：研究者や政策立案者を研修に招待するための機会の告知作成と発信.....	13
活動のハイライト 6：研修の実施.....	13
活動のハイライト 7：研修のフォローアップ.....	15
<b>Activity 4 栄養と身体活動のサーベイランスに関する地域研修の実施.....</b>	<b>17</b>
WHO の要請内容および成果物の活用方法 .....	17
WHOCC の活動目標.....	17
WHO の役割.....	17
活動のハイライト 8：栄養と身体活動のサーベイランスに関するトレーニング モジュールの開発.....	18

## 本活動報告の意義

国立健康・栄養研究所（通称：健栄研）は、「栄養と身体活動に関する WHO 協力センター（JPN-88,WHO Collaborating Centre for Nutrition and Physical Activity）」として 3 期目（2022 年 3 月 19 日～2026 年 3 月 18 日）の再指定を受けました。WHO 協力センター（通称：WHOCC）は、世界保健機関（通称：WHO）との協力事業を行う機関として、WHO が推進する施策に応じた活動を行うことが指定の条件であり、それぞれ行動計画が定められています。本活動報告書は、WHOCC の活動を通して、健栄研の健康と栄養に関する研究成果を広く世界に発信し、当研究所の活動を世界の皆様に知って頂くことを目的として作成しました。

当研究所が WHOCC として取り組む活動は、以下の 2 つの行動計画に基づきます。

1. WHO の要請に応じて、世界的な栄養目標に向けた地域栄養と非感染性疾患の戦略と行動計画の実施の一環として、WHO およびその加盟国に対して栄養に関する国家の政策および戦略ならびに持続可能で健康的な食事のための食品ベースの食事ガイドラインに関する技術提供と支援を行う。
2. WHO の要請に応じて、栄養不良の二重負荷に対する地方／国のモニタリングシステムの一環として、栄養と身体活動のサーベイランスの能力強化を目的とした WHO による加盟国への技術提供を支援する。

## — 行動計画 TOR 1

WHO の要請に応じて、世界的な栄養目標に向けた、地域栄養と非感染性疾患 (Non-Communicable Diseases: NCDs) の戦略と行動計画の実施の一環として、栄養に関する国家政策と戦略、および持続可能な健康的な食事のための食品ベースのガイドラインに関して、WHO とその加盟国に技術提供と支援を行う。

### Activity 1

#### 「持続可能で健康的な食事」と「食育」のための食品ベースの食事ガイドラインに関する政策と戦略について技術提供と支援を行う

ID 34658

### WHO の要請内容および成果物の活用方法

国の食品ベース食事ガイドラインの開発能力が十分ではない加盟国への支援が必要とされている。成果物は、WHO 戦略計画 (GPW13) <sup>1</sup>および多部門による行動を通じた栄養不良の削減と健康的な食生活の促進を通じた食事関連の NCDs 予防のプログラム予算に沿って加盟国に提供される。

### WHO 戦略計画 (GPW13) に貢献する成果

- 加盟国が生涯にわたる健康の社会的決定要因に対処可能になることを目指す。
- 加盟国が多分野の活動を通じてリスク要因に対処する技術パッケージを開発し、実装可能になること目指す。



### WHOCC の活動目標

- 食品ベースの食事ガイドラインに基づいてこれまでの科学的根拠をレビューする。
- レビューに基づいて、西太平洋地域 (WPR) の加盟国に適応可能な食品ベースの食事ガイドラインに関する運用ガイダンス法を開発するために使用できる技術を提供する。
- 日本国内の食品ベースの食事ガイドラインの開発と適応に関する情報および技術的支援を提供する。
- 関連部門と協力して、「食育」に関する概念の適応における技術的支援をする。

<sup>1</sup>WHO 戦略計画 (GPW13) とは、世界保健機関 (WHO) が策定した第 13 次総合事業計画 (Thirteenth General Programme of Work) を指し、2019 年から 2023 年までの 5 年間を対象とした中期戦略文書です。本計画では、3 つの主要な目標が掲げられており、それぞれにおいて 10 億人以上の人々の健康状態の改善を図ることを目指しています。

(参照) <https://www.who.int/about/general-programme-of-work/thirteenth>



## WHOの役割

- 加盟国のニーズに応じて活動を調整する。
- この活動に参加する加盟国を選び、加盟国との連絡と対話を主導する。
- 西太平洋地域（WPR）の加盟国に活動の成果を広め、共有する。



## 活動のハイライト1

### 国外の食品ベースの食事ガイドラインに基づくこれまでの科学的根拠のレビュー

#### • 諸外国の食品ベースの食事ガイドラインに関するレビューと最適化法に関するレビュー

厚生労働科学研究費補助金事業の一環として、食品ベースの食事ガイドラインに関する研究プロジェクトを2件開始した。1件目の研究は、諸外国における食事ガイドラインの策定理論と活用に関するレビューを行うことを目的とし、特に策定されたガイドラインに基づく調査の実施に焦点を当てている。2件目の研究は、最適化手法とデータ包絡分析を用いて最適な食品摂取量を決定した研究の目的、対象者、制約、最適化された栄養素、摂取した食品、および限界をレビューする。これらのレビューは、日本の新たな食事ガイドラインを策定するための基礎資料としても用いられる。この両研究プロジェクトは現在、国内の大学と協力して進行中である。

#### ☑ 今後の課題

研究を取りまとめ、広く情報発信を行い、西太平洋地域（WPR）の加盟国に適応可能な食品ベースの食事ガイドラインに関する運用ガイダンス法を開発するために使用できる技術を提供すること





## 活動のハイライト2

### 国内の食品ベースの食事ガイドラインの開発と適応に関する情報提供と技術的支援

- 日本版栄養プロファイルモデルの開発

厚生労働科学研究の一環として、人々の健康的な食事へのアクセスを高めるためのツールである日本版栄養プロファイルモデルに関する研究を推進している。日本版モデルの開発に際しては、日本の食文化や健康課題を踏まえ、加工食品版 [Takebayashi et al. 2024] と料理版 [Tousen et al. 2024] の2つのモデルを初版として開発し、食品関連事業者の製造プロセスと消費者のより健康的な食品選択を支援する内容とした。具体的には、エネルギー、飽和脂肪酸、糖類、ナトリウムは、過剰摂取になりやすい傾向に鑑み摂取を制限すべき栄養素（制限栄養素）として、また、果物類、野菜類、種実類、豆類、きのこ類、藻類と、たんぱく質、食物繊維は、摂取不足になりやすい傾向に鑑み摂取を推奨すべき栄養素（推奨栄養素）として、それぞれ位置づけた。採点基準（アルゴリズム）は、Health Star Rating (HSR) を基に、日本人に関する基準値を反映した。

#### ✓ 今後の課題

食品関連事業者と連携し、より利用できる日本版栄養プロファイルに改良すること

#### 📖 出版論文

- 1) Takebayashi J, Takimoto H, Okada C, Tousen Y, Ishimi Y. Development of a Nutrient Profiling Model for Processed Foods in Japan. *Nutrients*. 2024 Sep 7;16(17):3026. doi: 10.3390/nu16173026. PMID: 39275341; PMCID: PMC11397564.
- 2) Tousen Y, Takebayashi J, Okada C, Suzuki M, Yasudomi A, Yoshita K, Ishimi Y, Takimoto H. Development of a Nutrient Profile Model for Dishes in Japan Version 1.0: A New Step towards Addressing Public Health Nutrition Challenges. *Nutrients*. 2024 Sep 6;16(17):3012. doi: 10.3390/nu16173012. PMID: 39275327; PMCID: PMC11397037.

- **食事摂取基準の策定への参画**

厚生労働省が取りまとめる「日本人の食事摂取基準（2025年版）」の策定に、2023年8月より、当研究所の5名の研究者（策定検討会委員1名、ワーキンググループ4名）が参画した。その検討会の報告書が2024年10月11日に厚生労働省のウェブサイトで公表された。

 **今後の課題**

食事摂取基準を利用して、人々を「健康的な食事」に導くツールとしての食品ベースの食事ガイドライン開発に資するエビデンスを提供すること

 **ウェブサイト**

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_44138.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html)  (2025年6月1日有効)

## 活動のハイライト 3

### 「食育」に関する概念の適応における技術的支援

- 令和5年食育白書への掲載

国際協力外国人研究者招へい事業およびアジア栄養ネットワークシンポジウムを実施した。具体的には、2023年度 国際協力外国人研究者招へい事業で実施したインドネシアの新生児における災害関連の栄養不良に関する研究と、ラオス若者層の栄養状態の季節変動に焦点を当てた研究に関する内容である。これらについて、令和5年度食育白書で紹介し、西太平洋地域（WPR）における栄養と身体活動の現状と課題について、広く日本国民に理解を促す機会を提供した。また、2024年1月24日に開催された第11回アジア栄養ネットワークシンポジウムについて、健康と栄養を改善するための介入方法と実施研究に関する4カ国の報告書を紹介した。

#### 今後の課題

「食育」に関する当研究所の活動を継続的に発信すること

#### ウェブサイト

[https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/r5\\_index.html](https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/r5_index.html)  (2025年6月1日有効)



- 地域住民を対象とした食育の推進

「ワクワク EXPO with 食育推進全国大会」に参画し、子どもを含む地域住民を対象として（来場者 2 日間で約 30,000 人）、健康的な食事に関する情報提供を行った。当所は個人の野菜と果物の摂取量を皮膚カロテノイドから推定する装置（ベジメータ®）を有しており、その装置を用いた個別アセスメントを参加者に提供した。また、当所の代表者 2 名がこのイベントで『『災害食×宇宙食』から考える栄養の重要性』と「すべての人が、意識せず、自然に健康になれる食環境づくりとは？」というテーマで講演した。なお、当イベントは、大阪万博のコンセプトである「未来社会の実験室」に沿ったものであった。本所の研究成果を、地域住民の食育により効果的に活用することできた。

 ウェブサイト

<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/taikai/19th/index.html>  (2025 年 6 月 1 日有効)



ワクワク EXPO with 食育推進全国大会：ブースの様子



ワクワク EXPO with 食育推進全国大会：スタッフが来場者に説明している様子

## Activity 2

**健康的な食事と栄養不良の二重負荷（低栄養と過栄養）に関する知識、経験、教訓（課題に対する解決策）、優良事例の情報交換を促進するために、技術提供と支援を行う**

ID 34659

### WHOの要請内容および成果物の活用方法

栄養不良の二重負荷と食事関連の NCDs 予防に対する政策を開発および実施する WHO の取り組みの一環として、公的支援や対話促進、さらに加盟国間の知識、経験、教訓、優良事例の情報交換が必要とされている。これらの成果物は、WHO 戦略計画（GPW13）および多分野の活動を通じて栄養不良を削減し、食事関連の NCDs を予防するためのプログラム予算に沿った、持続可能で健康的な食生活を推進する加盟国への公的支援として WHO により活用される。

### WHO 戦略計画（GPW13）に貢献する成果

- 加盟国が生涯にわたる健康の社会的決定要因に対処可能になることを目指す。
- 加盟国が多分野の活動を通じてリスク要因に対処する技術パッケージを開発および実装可能となることを目指す。
- 市民社会と同様に、公共と民間部門の合意を通じて、多部門にわたる決定要因とリスク要因に対処できる。



### WHOCC の活動目標

- WHO が指定する加盟国間で、知識、経験、教訓、そして優良事例の情報交換を促進するために、ワークショップ（現時点では、アジア栄養ネットワークシンポジウムを指す）の調整と提供を行う。
- 専門家と講演者を特定し調整する。
- ワークショップの進行と報告書を準備する。
- ワークショップの情報を発信する。



### WHOの役割

- WHO は、アジア栄養ネットワークシンポジウムの議題やトピック、コンセプトノートに関する情報を提供する。
- WHO はシンポジウムで発表および参加する。
- 加盟国との連絡や対話を主導する。

## 活動のハイライト 4

### アジア栄養ネットワークシンポジウムの調整と提供

- ワークショップの準備

2025 年度に第 12 回アジア栄養ネットワークシンポジウムを開催するため、準備を進めている。アジア太平洋諸国における栄養と身体活動の環境改善、および国民の健康増進のために、研究エビデンスの実装における共通の戦略を見つけ出し議論することを検討している。次年度の開催に向けて、WHO 関連および国内外のステークホルダーとのシンポジウム開催にかかる協議、およびシンポジストの調整を進める。

- WHO 出版物：「健康的な食事とは？」の翻訳

シンポジウムの効果的なテーマを見つける過程として、WHO が推進する政策と戦略に対する国内の理解を深めることを目的に、以下の WHO 出版物を日本語に翻訳した：“What are healthy diets? Joint statement by the Food and Agriculture Organization of the United Nations and the World Health Organization. Geneva: WHO and FAO; 2024”。翻訳版：「健康的な食事とは？ 国際連合食糧農業機関と世界保健機関による共同声明」は健栄研のウェブサイトにて PDF 形式で公開した。さらなる普及と啓発のため、公益社団法人日本 WHO 協会および公益社団法人日本栄養士会と協力のもと、関係各機関のウェブサイトにも翻訳版を掲載し、より広く情報提供することを目指した（推定閲覧数：約 2 万 PV/月、到達人数：約 5 万人）。

#### ウェブサイト

<https://iris.who.int/handle/10665/379324>  (2025 年 6 月 1 日有効)

<https://www.dietitian.or.jp/trends/2024/420.html>  (2025 年 6 月 1 日有効)

<https://japan-who.or.jp/jp-service/onestop/>  (2025 年 6 月 1 日有効)



健康的な食事とは？  
国際連合食糧農業機関と 世界保健機関による共同声明

## — 行動計画 TOR 2

WHO の要請に応じて、栄養不良の二重負荷に対する地方/国のモニタリングシステムの一環として、栄養と身体活動のサーベイランス能力強化を目的とした技術支援を加盟国に提供する WHO の活動を支援する。

### Activity 3

**栄養不良の二重負荷と NCDs を防ぐための国のモニタリングシステムの一環として、栄養と身体活動のサーベイランスに関する研究者と政策立案者の能力を強化する**

ID 34660

### WHOの要請内容および成果物の活用方法

加盟国において、栄養不良の二重負荷に関するサーベイランスのモニタリングを実施する能力に格差が生じている可能性がある。成果物は、WHO 戦略計画（GPW13）および多部門による行動を通じた栄養不良の削減に関するプログラム予算に沿って、WHO により活用される。

### WHO 戦略計画（GPW13）に貢献する成果

- 加盟国が生涯にわたる健康の社会的決定要因に対処可能になることを目指す。
- 加盟国が多分野の活動を通じてリスク要因に対処する技術パッケージを開発および実装可能になることを目指す。



### WHOCC の活動目標

- 研究者や政策立案者を研修（現時点では、国際協力外国人研究者招へい事業を指す）に招待するために、研修機会の告知を作成し、広く発信をする。
- 研修への参加者を採用し準備する。
- 西太平洋地域（WPR）の加盟国に栄養と身体活動のサーベイランスに関する研修を提供する。
- 研修生が WHO の推奨に沿って栄養不良の二重負荷と食事関連の NCDs の活動をモニタリングすることを通じて、西太平洋地域（WPR）の加盟国に栄養と身体活動のサーベイランスに関するフォローアップ研修を実施する。



## WHOの役割

- WHOの各国事務所を通じて、能力強化研修の情報を加盟国に発信する。
- 加盟国の能力強化にむけた選考委員会に参加する。
- 加盟国との連絡を調整し、必要なフォローアップを主導する。
- 提案された参加者を検討し、WHOの方針と手順に沿っていることを確認する。



## 活動のハイライト 5

### 研究者や政策立案者を研修に招待するための機会の告知作成と発信

- **令和7（2025）年度 招へい事業の告知**

令和7（2025）年度の招へい事業の告知を作成し、WHOの西太平洋地域事務局（WPRO）を通して、西太平洋地域（WPR）の加盟国に広く案内した。また、WHOCCのウェブサイト、および弊所のSNS（X, 旧 Twitter）を通して、告知を発信した。



### ウェブサイト

[https://www.nibn.go.jp/activities/news\\_who/english/info\\_fellowship.html](https://www.nibn.go.jp/activities/news_who/english/info_fellowship.html)  (2025 年 6 月 1 日有効)



## 活動のハイライト 6

### 研修の実施

- **令和6（2024）年度 招へい事業の実施、および事業を通じた共同研究**

令和6（2024）年度招へい事業は、5名から応募があり、パプアニューギニアの研究者（モロベ州保健当局 健康促進保健官）1名を採用し、2024年9月から11月の間に招へいした。研究目的を、パプアニューギニアにおける国民栄養調査と関連調査に関して、ナラティブレビューを用いて概要を整理することとした。調査では、民族や文化が類似したメラネシア地域のソロモン諸島、バヌアツ、フィジーを含め、国民栄養調査を比較検討した。その結果、フィジーを除く3カ国は、国民栄養調査1~3回の不定期な実施であった。また、調査項目など調査に関する公開情報が限定的であった。このことから、NCDsリスク予防の観点から食事に関する調査項目の充実を検討する重要性が示唆された。令和6（2024）年度の事業のポイントは、パプアニューギニアの政策実務者を招へいし、サーベイランスの分析

技術を向上するための研修を行うことで、現地のサーベイランスシステムの改善に直接的な働きかけができたことである。

#### ☑ 今後の課題

共同研究を継続し、近隣国を含むメラネシア地域における国民栄養調査を始めとした健康・栄養調査などのサーベイランスシステムの改善に発展させること



招へい者のウェルカムランチの様子



招へい者のセミナーの様子

## 活動のハイライト 7

### 研修のフォローアップ

- 令和5（2023）年度 招へい事業をフォローアップした共同研究

#### a. ラオスとの共同研究

令和5（2023）年度招へい事業を通じたラオスの研究者（熱帯公衆衛生研究所 食料・栄養研究部 テクニカルオフィサー）との共同研究により、ラオスの若年層における栄養摂取量の季節変動について学会発表を行った（第95回日本衛生学会学術総会 2025年3月）。調査の結果、三分位に分けた際の最も摂取量の高い第3三分位の蛋白質エネルギー比が雨季よりも乾季の方が1.2%有意に高く、第3三分位の脂質エネルギー比は雨季よりも乾季の方が2.7%有意に低かった。この傾向は、過体重・肥満を含む体格指数が高い若年者にみられた。このことから、季節別の食品を考慮した栄養教育プログラムを行う重要性が示唆された（第95回日本衛生学会学術総会 2025年3月 発表）。この研究のポイントは、栄養状態に関する情報が不足しているラオスの若年層において、食品へのアクセスに季節的な違いがある可能性を示唆した点である。

#### 今後の課題

ラオスの若年層の栄養状態に関するデータの分析を進め、当該国の栄養施策の補強につなげること



招へい者のセミナーの様子



招へい者のセミナーの様子

## b. インドネシアとの共同研究、研究交流

令和5年(2023)度のインドネシアの招へい研究者(インドネシア保健省、国民栄養調査ファシリテーター)とは、災害栄養に関する継続的な共同研究に加えて、インドネシアで開催された国際シンポジウム(ハイブリッド形式)で研究交流を行った(The 2nd International Conference of Health Polytechnic of Palu、2024年10月、大学主催: Poltekkes Kemenkes Palu)。

また、農林水産省の委託事業として、2018年に大規模地震によるトリプル複合災害が発生した被災地であるスラウェシ島、パル市を2024年12月に訪問し、災害食に関する現地調査を行った。具体的には、パル市の地方自治体の担当部署3か所(Social Agency, Health Agency, Board for Disaster Management)に対してフォーカスグループインタビューと現地視察を実施し、災害食に関する基準や制度の整備状況、地方自治体による災害時に備えた食糧備蓄の運営管理状況を確認した。結果、災害食に関する基準や認証制度は存在しなかったが、各自治体に大型のキッチンカーが配備され、数時間で温かい食事を1,000食も提供できる仕組みが構築されている等の対策が講じられていた。

### ☑ 今後の課題

各国の体制や運営管理状況に応じた災害食の国際規格の制定に導くこと

### 🌐 ウェブサイト

<https://lms.kemkes.go.id/courses/19bb8b64-5bcd-4a67-aef3-c448182ea693>  (2025年6月1日有効)



Health Polytechnic of Palu の学生さんと



Health Polytechnic of Palu 調理実習室

## Activity 4

「栄養不良の二重負荷」を防ぐための国や地方レベルのモニタリングシステムの一環として、栄養と身体活動のサーベイランスに関する加盟国の能力を強化するための地域横断的な研修を実施する

ID 34661

### WHOの要請内容および成果物の活用方法

加盟国において、国の栄養行動の実施や栄養不良の二重負荷に関するサーベイランスのモニタリングを実施する能力に格差がある可能性がある。

### WHO 戦略計画 (GPW13) に貢献する成果

- 生涯にわたる健康の社会的決定要因に対処可能な国を目指す。
- 多分野の活動を通じてリスク要因に対処する技術パッケージを開発および実装可能な国を目指す。
- 市民社会と同様に、公共と民間部門の合意を通じて、多部門にわたる決定要因とリスク要因に対処する。



### WHOCCの活動目標

- WHO の推奨に沿った優良事例のケーススタディを含む栄養と身体活動のサーベイランスに関するトレーニングモジュール（現時点ではワークショップを指す）を開発する。
- オンラインまたは対面の実施内容を計画する。
- 専門家を特定、連携し、WHO の検討に必要なモジュールを提供する。
- 各セッションの詳細と内容、パワーポイントを含む研修用資料を作成する。
- WHO によって特定された西太平洋地域 (WPR) の加盟国に、栄養と身体活動のサーベイランスに関する研修を提供する。
- 研修の成果と結果をレビューまたは評価する。
- 研修の報告をする。



### WHOの役割

- モジュールや研修資料に情報や提案を提供する。
- 研修のお知らせを発信する。
- 提案された参加者の検討と確認をする。
- トレーニングモジュール提供に、出席参加する。

## 活動のハイライト 8

### 栄養と身体活動のサーベイランスに関するトレーニングモジュールの開発

#### ・ トレーニングモジュール開発のためのワークショップの開催

健康的なアジア太平洋のための栄養と身体活動のワークショップ（オンライン）を 2024 年 11 月 28 日に初めて開催した。栄養と身体活動のサーベイランスの実施は、国民の健康状態を把握することで取り組むべき課題が明らかとなり、国民の栄養不良の二重負荷を改善する糸口となる重要な事業である。しかし、必ずしも全ての国において調査が良好に実施されているとは限らない。今回のワークショップは、「栄養と身体活動のサーベイランスの教育とトレーニングを強化すること」を主な目的とし、7 か国 24 名の研究者と当所の研究者 3 名が参加した。WHO 栄養・食品安全部 Dr. Elisa Dominguez に「栄養情報システム（NIS）の強化による栄養改善」を、WHO ラオス国事務所 Dr. Achala Upendra Jayatilleke に「ケーススタディ：ラオス人民共和国におけるヘルスマネジメントインフォメーションシステム（HMIS/dhis2）の強化による栄養データ管理と意思決定の改善」を講演いただいた。参加者によるグループワークでは、アジア太平洋地域の栄養と身体活動のサーベイランスの現状と課題に関する意見交換を行い、課題解決に向けて、課題と目標のギャップを特定し、現状の課題解決に向けた対応策を議論し、それを実現するための教育や研修案を参加者間で意見交換し情報共有を図った。議論のキーワードとして、「標準化された、かつ適応可能なデータシステムの構築」「調査、分析技術の向上と人材育成」「調査の普及啓発と国民および行政の認知度向上」等が挙げられた。参加者からは、他の国の状況や知見を知ることにもつながり、継続的な関連企画の開催希望が聞かれ、アジア太平洋地域におけるこれらの目標達成に向けた教育・研修の実施に向けて、更なる国際連携の強化を進めることを確認した。

#### 今後の課題

今回のワークショップの議論を基に、継続的な情報交換機会とネットワークを提供し、地域横断的なトレーニングモジュールの開発に発展させること

#### ウェブサイト

[https://www.nibn.go.jp/activities/news\\_who/info\\_workshop\\_jp.html](https://www.nibn.go.jp/activities/news_who/info_workshop_jp.html)  (2025 年 6 月 1 日有効)



ワークショップのプログラム



オンラインでのワークショップの様子



栄養と身体活動に関する WHO 協力センター  
2024 年度 年次報告書